

授業科目 保健統計学

【担当教員名】		対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・看護
遠藤 和男 (週回数：各学科助手またはATが応援)		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【概要・一般目標：G10】					
<概要> 保健・医療分野において用いられている独特の用語や定義を理解し、卒業研究や卒後現場でも応用できる統計学の方法を学習する。医療の現場でも重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎についての修得を目指す。					
<一般目標：G10> 証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。					
【学習目標】					
1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. コンピュータ学習（CAD）に積極的に参加する。 4. 正しい統計学的な検定方法を選択できる。 5. 適用した検定結果について正しく判断できる。 6. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	データの代表値、散布度について学ぶ。			2	講義と小テスト
2	基本統計のまとめ：度数分布表及びヒストグラムの描き方を演習する。			2,3	演習(助手またはATが応援)
3	統計学的な検定の手順及び基本的な統計分布の意味を学ぶ。			1	講義と小テスト
4	正規分布の特徴や基本的な統計量の意味について演習する。			3-6	演習(助手またはATが応援)
5	2群の平均値の比較について様々な方法を学ぶ。			1	講義と小テスト
6	卒業研究の時に最も多用される検定方法について演習する。			3-6	演習(助手またはATが応援)
7	保健衛生の指標及び率の調整方法について学ぶ。			2	講義と小テスト
8	率の調整方法であるSMRを用いて、地域診断について演習する。			3-6	演習(助手またはATが応援)
9	疫学研究のさまざまな型と実際に用いられる指標について学ぶ。			1,2	講義と小テスト
10	後向き調査の手法を用いて、食中毒の原因解明について演習する。			3-6	演習(助手またはATが応援)
11	記述疫学の方法とアンケート調査の実際について学ぶ。			1,2	講義と小テスト
12	実際に調査、集計された結果を用いて、分析を行う。			3-6	演習(助手またはATが応援)
13	スクリーニングの基礎である敏感度及び特異度の意味を学ぶ。			1,2	講義と小テスト
14	レベルを動かした場合の各指標の変化について演習する。			3-6	演習(助手またはATが応援)
15	地域相関研究の考え方を学び、相関係数の求め方について演習する。			1-6	講義と小演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		保健統計テキスト	遠藤和男	考古堂	2008・2,800円＋税
参考書		医統計テキスト	山本正治、遠藤和男	西村書店	1990・2,500円＋税
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
1. 奇数回目の最後に小テストを実施する。 2. 偶数回目にはレポートを提出してもらう。 3. 筆記試験結果に1、2の出席を考慮して総合的に評価する。		※高校の数学B(3)統計とコンピュータの「イ. 資料の分析」の所に、代表値、分散、標準偏差が載っています。授業中に学んでいなくても、該当部分をよく読んで予習してから第1回目を受けて下さい。 なお、OT学科とST学科は合同の授業となります。			